

つなぎ温泉四季彩がオープンして五月で丸五年を迎えます。これまで津奈木町は素より全国各地から、八十万人六千人のお客様に「来る」の施設、来館されたお客様一人一人に喜んで頂き、又来たい、一度つなぎ温泉四季彩に行ってみたら、と勧めてもらえる様に、「笑顔」をモットーに統一された接客が出来る様に皆んなで努力しています。

この五年間に、温泉施設や物産館が各市町村にあり、舟と三人が称せられてい

ここに、こんな人が……

『ギョーザ作り』

平国PTA家庭級で料理教室
長浜幸子さん(41)
(平国地区)
名長浜幸子さんは中国長春の出身で日本に嫁いで来られ二年になるそうです。幸子さんの作る餃子がとてもおいしいと評判になり、方々から作り方を教えて欲しいと依頼があるそうです。先日は平国小学校の若いお母さん方に教えられました。



出来上がった餃子がまたおいしく今まで味わった事がない格別の味がしました。お父さんからの直伝だそうで生前、料理店を三つも経営されておられる頃から手伝っておられたという事でした。

恒例の新春
タコ揚げ大会!!
すばらしい澄切った青空の下に恒例の新春タコ揚げ大会が行われました。冷たい朝でしたが、走り

短歌
本郷武雄選
七草はバツクの中に納まりてスー
バーの棚に客を待つかに
白浜美和子
減反の草枯し田に羽音なくちろ
哀え命見凝むか
椎葉 豊子
ひととせは東の間なりや年の瀬を
紅白なますの大根きざむ
寺本ツルヲ
初雪の舞ふ庭の木に小鳥きて吊せ
しみかん啄むが見ゆ
福田八重子
落ち葉ふみめぐりて行けば道の辺
のコスモスの花風に揺れいぬ
沢田しづを
大晦日夫の遺影にひとりこと云え
ばかすかに笑むと見ゆる
柳迫いづも
手料理を持ちて集へる友の家女正
月老ゆるも楽しき
西 滋子

肥後狂句
野田 浦子
霜柱ふみて登りし日もはるか四〇
年の甘夏を食る
もうけもん 当てにしないおまけまで
残念 今年も春を先こされ
もうけもん 失した財布をさがあ拾た
残念 たった三票足らやった
もうけもん ほかの者には黙ってけ
残念 あと十ばかり若くかなら
もうけもん 今夜の飲み会奢りちゅう
残念 俺の十八番を先い謡い
白足袋
もうけもん お返し期待義理チョコで
残念 もらいそこねたよか娘
寅之助

出逢い
伊藤 多美子
勢いがあって、きらきら輝いている。活気があって明るく、清潔で安全な店にはいつもホットな湯気が立ちのぼり、熱気と職員のやる気が感じられると言います。感じたら具体的に動

来館されたお客様一人一人との出逢いを大切に、今年もよき出逢いが、できますようにしていきたいと思っています。

お風呂場が多くの方々の交流の場、出逢いの場として皆さんに利用され愛されて行く様に日々研鑽を忘れます。

津奈木公民館報

津奈木町郷土史料

今に残るもの(2)

頼山陽は文政元年(一八一八)九月一日佐敷に入る。津奈木の深水玄門宅に入った日は不詳で、何日泊まっていったかわからない(町誌上巻八一六頁参照)。頼山陽は鴻儒(儒教の大学者)で、名は襄。字は子成、別には三六峰外史と号し、通称は久太郎、京都の居所を水四社、山紫水明処などと名付け、「日本外史」「新策」「日本政記」「日本楽府」「山陽詩鈔」など著作多数。

2 高山彦九郎(鉄舟)
寛政四年(一七九二)二月津奈木の深水宗安宅に宿す、とあり幕末の偉人で歌坂の仙像の事も日記「筑紫日記」寛政四年に記載している。幕末の三舟として、勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄

3 田能村竹田
文政十年(一八二六)に深水玄門を尋ねている。竹田は徳川中期の文人画家で、豊後国竹田村の岡藩医の家に生れたが、儒学に志し画を好み、三七才で岡藩を引退し、詩画三昧の生活に入る。

4 古川古松軒
天明三年(一七八三)六月一日、米ノ津から水俣に入って、東北地方の様子を「西遊雜記」に書いている。外に「東遊雜記」の著書もあり、徳川中期の地理学者で、備中国の出身者である。

モデル公民館発表
寒い朝でした。しかし今日は皆さんがモデル公民館の発表というので、熱気一杯でした。大きな三基のドンドヤに火がつけれ、竹の割れる轟音にビックリしながら楽しみました。開会式では、館長さんのあいさつのあと大正琴の演奏があり特に会を盛り上げました。

地区あげてもり上がった鬼火焼き!!
古中尾地区
好会、大正琴の会、活性化グループ、親子会、町誌を読む会等、沢山の活動で

読書感想文
「母をたずねて」を読んで
津奈木小3年 柳迫 望
私はこの本を読んで感動を知りました。内容は、マルコという一人の子どもの、アルゼンチンまで働きに行った母親をたずねて、遠く苦しい旅をした話です。

親をさがしてやって来たが、お金が無くて汽車に乗れないんだ。助けてやってくれ。」とたのんだりしてくれました。私はこの部分を読んでこのおじいさんはえらいと思いました。だって全然あかの他人のマルコをわが子のように心配してくれて、私だったらみすてていたかも知れません。おじいさんは集まったお金をマルコに渡し、見送ってくれました。